

一期一会

自律 目標に向かって自分自身を律する
感謝 思いやりや感謝の気持ちをもつ
貢献 将来社会に貢献する態度を養う

2021.7.2 第13号



「キャリア教育を基盤とした学校づくり」

ちょっと堅そうなタイトルで申し訳ありません(^_^;)

学校の取組についてお知らせいたします。

子どもたちが生きるこれからの社会は、AI（人工知能）技術の進化によって大きく変わるであろうとされています。今まで教育の特権であった「知識」や「情報」がだれでもワンタッチ、ワンクリックで手に入る時代になってきました。誰もが社会的知識をもてるようになってきており、特定の分野に関しては、教師よりも生徒の方が多くの知識をもっている可能性があります。

これから必要とされる力として、「思考力」「表現力」「判断力」「課題発見力」・・・特に非認知能力（やり抜く力、やる気、意欲、忍耐強い、粘り強い、根気、気概、リーダーシップ、対応力、創造性、工夫、協調性等）は、将来の労働市場における成果に大きく影響すると言われています。学校は、学力に加えて非認知能力を培う場でもありますので、これらの力を培うためにキャリア教育を基盤とした学校づくりを推進しているところです。

11日（金）には、小林西高等学校の川崎龍哉教頭先生にお越しいただき、3年生に向けて「夢をつかもう」というテーマで講話をしていただきました。また、今週2日（金）には、宮崎県キャリア教育支援センターから水永正憲氏にお越しいただき、3年生に向けて「君たちはどう生きるか 君たちの未来は可能性に満ちている」というテーマで講話をしていただく予定です。他にも、7月中に農業体験学習（1年）、職場体験学習（2年）、高校説明会（3年）を予定しています。



細野中学校は、目標に向かって自分自身を律することができ、思いやりや感謝の気持ちをもって、将来社会に貢献する生徒の育成を目指します。

苦難や絶望の中でどう「希望」を見いだすのか

今回の新型コロナウイルスで僕たちはこれまで経験したことがないような苦難や絶望を経験しました。人類はこれまでこうした困難の中どのように「希望」を見いだしてきたのでしょうか。

中世の時代の人々であれば、それは「神様」でした。難しい状況に陥るとみんな神様にすがって祈りました。

近代では「科学」です。科学は、要は人間が積み上げてきた知識です。「科学的根拠があるのかどうか」に人々は答えを求めようになりました。

近年では、僕らがすがり始めているのが「スマホ」や「AI」ではないのでしょうか。

最近のAIの進化はすごいです。2016年に「ストックフィッシュ」というAIがチェスの世界チャンピオンになりました。

このAIは、人類のすべての指し方を学習させ、機械同士の対戦も全部学習させることで強くなりました。

そして翌年、これを破ってチャンピオンになったのが「アルファゼロ」というAIでした。

「アルファゼロ」に教えたのはルールだけです。人間の情報をインプットせずに独自に学習させ、後は自己対戦を繰り返しながら自ら強くなっていったのです。

しかもその学習時間は「4時間」でした。

たった4時間で、人類が積み上げてきたそれまでのチェスの歴史を一気に塗り替えてしまったのです。AIにとって情報を集めて活用することはそれくらい簡単なことなのです。

スマホについている翻訳機能もどんどん精度が上がっています。皆さんが使った情報が蓄積され、集約されているからです。

やがてこの翻訳機能の完成度があるレベルに達した瞬間から人間はもう通訳をする必要がなくなり、そうなれば「通訳」という職業自体がなくなってしまうかもしれません。

先生とかお医者さんの職業もそうです。今はそういう劇的な変化がいつやってくるか分からない時代なのです。

職業というのは時代によって大きく変化します。昔あった職業が、時代の変化によって違う職業に取って代わられるということがこれまで幾度となく繰り返されてきました。

今後、その変化のサイクルはさらに短くなるでしょう。皆さんが今就いている職業も将来はなくなっているかもしれないし、想像もしていなかったような職業が現れる可能性だってあるのです。

そんな「先々どうなるか分からない時代」の中で、人々はさまざまな苦難や絶望を抱えるのです。

そこからどう「希望」を見いだしていけるのか、それを僕らは考えなきゃいけないのです。

